

## 場内の樹木

1957年（昭和32年）に当場が現在敷地に岩見沢林務署育種事業所として発足してから今日まで、多くの人の努力によって道内外から各種の樹木が集められてきた。1962年（昭和37年）に森田健次郎氏が北海道光珠内林木育種場樹木目録としてとりまとめたときには、25科51属184種（亜種も含む）、品種も含めると、ポプラ種80種、クルミ8種、クリ33種で合計305種が数えられた。いずれも草木を導入したり、さしきやつぎきでつかせたり、種子より発芽させて増やしたもので、幼いものがほとんどであった。

その後1969年の調べでは51科110属424種、そのほか品種ではクリ47種、クルミ8種、ポプラ53種、その他25種も合せて合計557種と大巾に増えている。この中には、この8年間に導入しながら枯死などで姿を失った、チャボガヤ・アオモリトドマツ、ヒマラヤスギ、アマミゴヨウなど33種は含まれていない。また現在でも、場内樹木のほとんどが幼令のものであるが、この中でも比較的大きな姿の見られるもので、注目したいものには次のようなものがある。マンシュウニレ、アメリカシオジの類、ユリノキ、メタセコイヤ、ウラゲハクサンシャクナゲ、ヨーロッパカンバ類、カシグルミ、ハナアカシヤ、カラマツ採種林、外国マツ類など。

このほか、トドマツやカラマツのクローンやクリ、ポプラの品種展示林なども順調に育っている。

またこれからも樹芸樹木や防災用樹種などが蒐集されてゆく見込みなので将来が楽しみである。

（企画指導科 村野紀雄）